

令和 6 年度 九州支部関連行事

月	日	内容
4	22	第 1 回執行部会
5	13	第 1 回幹事会
6	29	第 61 回化学関連支部合同九州大会
7	20	第 29 回化学工学会九州支部学生賞審査会
7	14～15	第 34 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会
7, 8	7/17～8/3	第 55 回化学工学の基礎講習会 (7/17, 18, 19, 24, 25, 26, 31, 8/1, 2)
9	25	第 2 回執行部会(拡大)
10	15～17	若手研究者グローバルネットワーク形成事業
11	7～8	第 10 回九州地区大学－高専若手研究者 研究・教育セミナー
1	24	第 3 回執行部会
1	24	第 27 回 「企業と大学・高専の人材育成懇談会」
3	10	第 2 回幹事会

第 61 回化学関連支部合同九州大会報告

第 61 回化学関連合同九州大会支部が行われ、大変盛況のうちに終わりました。化学工学会九州支部では、全 97 件のポスターのうち、当日審査に登録された 76 件に対し 42 人の審査員で化学工学分野の審査を行いました。結果、下記の優秀発表者 16 人をポスター賞として表彰しました。これらの発表者には、表彰式において渡辺副支部長より賞状を、西浜審査委員長より副賞（図書カード 3,000 円分）が手渡されました。ここに受賞者の栄誉を称えますと共に、ポスター賞審査にご協力頂きました審査委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

日時: 令和 6 年 6 月 29 日

場所: 北九州国際会議場

概要: 依頼講演 8 件、一般ポスター発表 627 件

(うち化学工学分野から、依頼講演 1 件、一般ポスター発表 97 件)

化学工学会九州支部推薦 依頼講演

田巻 孝敬(鹿児島大学)「CO₂ 電解による高選択エチレン生成へ向けた電極反応場設計」

ポスター賞受賞者

16 名(次ページ表)

審査委員氏名(敬称略、順不同)

審査委員長: 西浜 章平(化学工学会九州支部企画幹事)

審査取りまとめ役: 山村 方人(化学工学会九州支部庶務幹事 A)

審査委員(42 名): 中澤浩二(北九大)、今井裕之(北九大)、上江洲一也(北九大)、後藤雅宏(九州大)、若林里衣(九州大)、川口喜郎(九州大)、上平正道(九州大)、河邊佳典(九州大)、白木川奈菜(九州大)、水本博(九州大)、名嘉山祥也(九州大)、堺裕輔(九州大)、池上康寛(九州大)、三浦佳子(九州大)、松本光(九州大)、高辻義行(九工大)、春山哲也(九工大)、大渡啓介(佐賀大)、川喜田英孝(佐賀大)、森貞真太郎(佐賀大)、大河平紀司(有明高専)、佐々木満(熊本大)、永井杏奈(熊本大)、木田徹也(熊本大)、奥村真樹(崇城大)、古水雄志(崇城大)、松下琢(崇城大)、櫻木美菜(崇城大)、後藤浩一(崇城大)、大榮薫(宮崎大)、松根英樹(宮崎大)、大島達也(宮崎大)、稲田飛鳥(宮崎大)、菅本和寛(宮崎大)、高瀬隼(鹿児島大)、田巻孝敬(鹿児島大)、武井孝行(鹿児島大)、吉田昌弘(鹿児島大)、松山清(福工大)、廣橋由美子(福岡大)、新戸浩幸(福岡大)

ポスター賞受賞者

発表番号	発表者氏名	所属校	発表題目
CE-3-0001	茶堂 直志	九州大学	創傷治癒を目的とした多層化ナノファイバーシートの形態制御
CE-3-0003	安井 恵吾	九州大学	肝細胞移植治療に向けたヘパリン導入ナノファイバー足場の開発
CE-3-0005	藤田 尚明	九州大学	深共晶溶媒を利用した高浸透性ペプチド経皮製剤の開発
CE-3-0008	高井 洵奈	崇城大学	インドシアニングリーン含有ハイブリッドリボソームの食道がんに対するセラノスティクス
CE-3-0009	鬼塚 堯亘	崇城大学	ハイブリッドリボソームの多発性骨髄腫に対するアポトーシス誘導による治療効果
CE-3-0011	藤原 裕大	九州大学	細胞内取り込みの向上を目指したダイナミクス改変ペプチド超分子の創製
CE-3-0016	木村 大地	九州大学	CHO細胞での人工転写因子による抗体生産細胞構築技術の開発
CE-3-0023	西浦 千裕	崇城大学	三次元培養担体を用いたHepG2細胞における胆汁排泄トランスポーター発現の培養期間による局在変化に関する研究
CE-3-0042	廣石 健人	九州大学	無溶媒有機合成における高分子担持触媒の材料特性が及ぼす影響の検討
CE-3-0043	西村 和也	九州大学	高い光透過性を有した光触媒固定化ゲルによるフロー合成
CE-3-0045	嘉村 知紀	佐賀大学	解離性官能基導入による昇温型ゲル化剤PNIPAMコポリマーナノゲルへのpH応答性の付与
CE-3-0059	岡本 一輝	北九州市立大学	強酸性カチオン交換樹脂による水酸化テトラメチルアンモニウム
CE-3-0067	南 歩希	九州工業大学	非線形造形物を対象としたフォトグラメトリによる評価
CE-3-0074	田尻 隼	鹿児島大学	機能性色素入りナノカプセルの調製におけるノニオン性界面活性剤のHLB値と粒子径の相関
CE-3-0091	庄司 綾乃	福岡工業大学	超臨界含浸法を用いたバイメタルナノ粒子触媒の調製と菌頭カップリング反応への応用
CE-3-0095	氏田 峻ノ介	鹿児島大学	酵素型バイオ燃料電池用の色素系レドックスポリマーの開発

第29回化学工学会九州支部学生賞審査会 報告

令和6年7月20日に第29回化学工学会九州支部学生賞審査会が開催されました。本学生賞は、学生自身の能力を審査する観点から、研究の理解度やプレゼンテーション能力を特に重視して毎年審査が行われている支部企画です。本年は博士課程6名、修士課程9名が審査会において研究発表を行い、8名の審査委員によって厳正に審査が行われました。その結果、受賞者は下記の通り、博士課程の部は2名、修士課程の部は3名の方に決定しました。発表した学生諸君の研究への理解、プレゼンテーション能力の高さ、明快な回答など、どれもレベルの高いものが多く、今後ますますの飛躍が期待される審査会となりました。長時間にわたり教育的見地に立ち、厳正なる審査を担当して頂いた審査委員の皆様、心より感謝申し上げます。

【博士課程の部】

DC02 神園 麻裕（九州大学）

「疎水性深共晶溶媒を用いた自動車触媒リサイクルプロセスの開発」

DC06 山下 祐典（鹿児島大学）

「滅菌操作を利用したキットサンゲルのワンステップ製造法の開発」

【修士課程の部】

MC01 橋口 直紀（九州工業大学）

「液滴衝突における液滴内部のフレーク粒子挙動の観察および数値解析」

MC07 半田 幸太郎（鹿児島大学）

「固/気界面形成による高エチレン選択性実現へ向けたCO₂電解還元用セルの開発」

MC08 下川 拓能（鹿児島大学）

「顎骨再建のための多機能性骨被覆材の開発」

審査員氏名（敬称略、順不同）

鈴川一己、中澤浩二、斎藤泰洋、櫻木美奈、川喜田英孝、瀬戸弘一、永井杏奈、田中 学

第 34 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 実施報告書

実施日： 令和 6 年 7 月 19 日(金)～20 日(土)
会場： 北九州学術研究都市会議場
(〒808-0135 北九州市若松区ひびきの 2-3)
参加者総数： 104 名(学生 82 名、教職員 22 名)
担当校： 北九州市立大学
実行委員長 西浜 章平 北九州市立大学国際環境工学部環境化学工学科
学生幹事 代表 白土 大翔 北九州市立大学大学院国際環境工学研究科
環境システム専攻 西浜研究室

討論会実施内容

北九州市立大学国際環境工学部に隣接する北九州学術研究都市会議場を会場として各自で宿泊先を予約する形式で 2 日間行った。別紙 1 に示すプログラムに従い、第 1 日目は、学生企画①グループワーク、学生企画②特別講演会、および交流会を順に実施した。第 2 日目はポスター発表を実施したのち、学生企画③化学工学を題材としたクイズ大会および総合討論を行って本会を閉会した。本会の会計報告書を別紙 2 に記載する。

○学生企画① グループワーク

学生企画参加者 70 名を 14 グループに分け、紙で作成した道路上をチョロ Q でどれだけ長い距離を走らせることができるかを競う企画を行った(別紙 3、写真 1)。この企画では学生間の協力や連携が不可欠となるような状況を与え、学生間での活発な交流を促すことにより、2 日目のポスターセッションでより踏み込んだ内容での討論ができる環境を提供することを目的とした。グループはできるだけ異なる所属の者同士が一緒になるように編成した。

参加者からは、「積極的にコミュニケーションをとることで初対面の人との考え方の共有や作業の分担を上手く行えることができた」や「他大学の人との交流をする機会があり楽しかった」という意見が寄せられた。

○学生企画② 特別講演会

下記の講師の先生方をお招きし、海外への留学経験に基づき、学生が海外に興味を持つきっかけとなるような講演をしていただいた(別紙 3、写真 2)。

(1) 九州大学大学院工学研究院化学工学部門 矢野 武尊先生

「Wo ein Wille ist, ist auch ein Weg. 一意志あるところに道は開ける」

(2) 九州大学大学院工学研究院応用化学部門 若林 里衣先生

「或る研究者の研究留学体験談 ～一步踏み出してみませんか?～」

矢野先生にはドイツへの留学の体験談を頂いた。海外の教授にメールを送り、留学のアポイント

を取ることで留学先が決まることや、海外での研究室での生活やプライベートの話をさせていただいた。また、語学を学ぶための勉強法やおすすめのアプリなどもご教授頂いた。若林先生には現在の学生の留学への関心や不安に感じている部分のお話から、ご自身の留学への考え方や実際の留学生活、ラボでの苦勞した点などのお話を頂いた。また、海外においてプライベートでの観光や娯楽なども一緒にご説明頂いた。学生からは、「留学の体験談を通して言語的な障壁を乗り越えられる勇気を持つことが出来るかどうかが鍵となることが改めて理解できた」や「留学については少しか気になっていたことだったので、今後の方針に役立てたいと思います」という意見が伺えた。

○交流会

学生間の交流を目的に、食事やアルコールの提供をともなった交流会を実施した(別紙 3、写真 3)。参加者からは、「普段では関わる事が出来ない人と関わってよかった」との感想が多く、好評であった。

○ポスター発表

前半後半に別れて 50 分ずつポスターセッションを実施した(別紙 3、写真 4)。ポスター発表の申し込みは 74 件であった。参加者全員が審査員となり、学生と教員ともに 2 件に投票し、上位 12 名をポスター賞受賞者として選出した(別紙 4)。閉会式にてポスター賞受賞式を行い、賞状および副賞(図書券 3,000 円)を授与した(別紙 3、写真 6)。

○学生企画③ 化学工学を題材としたクイズ大会

グループワークと同じ班で、化学工学を題材としたクイズ大会を実施した(別紙 3、写真 5)。参加者からは、クイズの内容、難易度ともに概ね好評であった。

○総合討論・閉会式

総合討論・閉会式において、グループワーク、およびクイズ大会の表彰、ポスター賞授賞式を行った。また、次回開催校が大分大学であると発表され、内梨さんより挨拶があった。会計報告を行い、閉会した。閉会后、集合写真を撮って解散した。

以上

第 34 回九州地区若手ケミカルエンジニア討論会 ポスター賞受賞者

氏名	所属	演題
廣石 健人	九州大学	高分子固定化触媒のやわらかさを活かしたフ ァインケミカルの無溶媒合成
北城戸 幸紀	九州大学	循環型農業実現に向けた大気圧アークプラズ マによる窒素固定
水口 敬貴	九州大学	末端配列を改変したペプチド共集合体の構造 変化と液-液相分離環境での局在評価
稲形 のん	九州大学	タンパク質が主役となる合成高分子を基材と するハイドロゲルの作製
室園 晃輝	九州大学	抗体フラグメントの部位特異的ラベル化を可 能にする新手法の提案
山地 康太	九州工業大学	褐炭コークスにおける気孔の屈曲度の評価お よびヤング率に関する数値解析
吉田 翔飛	北九州市立大学	抽出剤含浸樹脂を用いた廃 Nd 磁石からの希土 類金属の分離回収
櫻井 鴻志郎	佐賀大学	フィコシアニンを選択的に吸着する貫通型多 孔質樹脂の合成
小田 駿	熊本大学	表面処理による CD-MOF の耐水性強化
日高 智貴	鹿児島大学	含酸素化合物生成へ向けた銅合金電極の開発
鈴木 海斗	鹿児島大学	ソノケミカル反応による重合開始剤の基板へ の導入とラジカル重合による成膜
下川 拓能	鹿児島大学	顎骨を細菌感染から守るシートの開発

令和 6 年度「第 55 回化学工学の基礎講習会」報告

【開催日】 7月17日～8月2日（全9回）

【会場】 リファレンス駅東ビル
福岡市博多区博多駅東 1-16-14

【受講者】

延べ受講申込数 248 名

延べ出席者数 239 名

申込/出席

1. 化学工学基礎	[7月17日(水)]	38 / 36
2. 流動	[7月18日(木)]	43 / 41
3. 伝熱	[7月19日(金)]	37 / 36
4. 晶析	[7月24日(水)]	22 / 20
5. 反応工学(1)	[7月25日(木)]	20 / 20
6. 反応工学(2)	[7月26日(金)]	20 / 20
7. 調湿・乾燥	[7月31日(水)]	17 / 16
8. 吸着・イオン交換	[8月1日(木)]	23 / 22
9. プロセス制御	[8月2日(金)]	28 / 28

【所属】

- ・西川計測(株)
- ・(株)高田工業所
- ・日揮触媒化成(株)
- ・(株)江藤製作所
- ・JNC(株)
- ・西日本電線(株)
- ・三菱ケミカル(株)福岡事業所
- ・(株)GL HAKKO
- ・AGC エスアイテック(株)
- ・KJ ケミカルズ(株)
- ・ツネイシカムテックス(株)
- ・日鉄ケミカル&マテリアル(株)
- ・三井化学(株)大牟田工場
- ・(株)サナス
- ・(株)旭製作所
- ・(株)レゾナック
- ・(株)新菱

(申込順)

若手研究者グローバルネットワーク形成事業

Japan-Croatia Joint Symposium on Chemical Engineering & Plasma Agriculture for Young Scientists Global Networking (JC-JSChEPA) 報告

共催:化学工学会九州支部,

JST 共創の場形成支援プログラム「持続可能な農業生産性向上を実現するプラズマアグリサイエンス拠点」

University of Zagreb, Faculty of Chemical Engineering and Technology (FKIT)

協賛:化学工学会

はじめに

2024 年 10 月 15 日～17 日, 若手研究者グローバルネットワーク形成事業 Japan-Croatia Joint Symposium on Chemical Engineering & Plasma Agriculture for Young Scientists Global Networking (JC-JSChEPA)が開催された。近年の中・東欧は次世代高度理数系・デジタル人材が豊富であり, 経済産業省, JETRO をはじめ各業界から注目が集まっている地域であることに着眼したことに端を発する。化学工学分野の人材不足に対して, 中・東欧の理数系人材, 現地のとりまく状況や多様性, 学生意識, 政府・大学・企業の動向調査を行い, いち早く相互啓発や信頼関係の構築かを図るべく, ジョイントシンポジウム JC-JSChEPA を開催するに至った。



実施内容

多くの特筆点があるが, 一日目は Scientific Symposium が開催された。開催に先立ち現地からの挨拶として, Prof. Ante Jukic (University of Zagreb)からの Greeting Remark に続き, スポンサー企業である島津製作所から Gordon Tomac 氏より開催の祝辞, 在クロアチア日本大使館より, 磯正人氏 (駐クロアチア特命全権大使, 当時)からの祝辞も頂き, 化学工学分野への大きな期待を込めたコメントを頂いた。その後, 現地実行委員長である Prof. Rogina Anamarija (University of Zagreb)からの挨拶に続き, 化学工学九州支部 元支部長である梶原稔尚教授 (九州大)からの挨拶を頂いた。初開催である本シンポジウムにおいて, 今後への大きな期待が膨らむ Opening Ceremony から始まった。本シンポジウムは, 分野を先導する研究者からの招待講演と, 学生からのポスターセッション (フラッシュプレゼン含) で構成されており, 8 件の招待講演と 15 件のポスター発表がなされた。招待講演は, 材料分野からバイオ, 再生医療まで幅広いテーマの素晴らしい講演がなされ, 極めて活発な質疑応答がなされた。ポスター発表では, 日本側もクロアチア側も, 積極的かつ有意義なディスカッションがなされていたことが印象的である。

二日目は, ラボツアーと現地工場見学が実施された。ザグレブ大学におけるプロセスからバイオ応用まで幅広い化学工学分野におけるラボの見学, また薬剤メーカーである Selvita Ltd の研究施設・工場見学が行われ, 通常入場許可を得ることが難しい企業にも特例で見学させて頂いた。

三日目は, 学生主導企画として, 現地の土壌, 水資源利用, 緑化事業などの視察として, Plitvice Lakes National Park にて, 各種現況調査を行った。その間も, 学生を中心とした若手研究者同士の交流が活発であり, 非常に有意義である企画となった。

おわりに

クロアチアにおける優秀な若手人材の獲得にむけた国際人的交流関係を早期構築に向けて, 第 1 回としては極めて有意義な会であったと言える。第 2 回目の開催がどのような時期に, どこで実施するかという点は, 現時点では全くの未定ではあるものの, 関係者による協議は行われている。

コロナ禍真っ只中や直前・直後に研究を開始した学生にとっては特に, クロアチアでの研究発表, 見学, 学生企画の主導などの経験は, 今後の人脈形成にもつながるも極めて有意義な企画であったと考えられる。今回は特に 2 名の学生に対して旅費支援を行った。この選定に際しては多くの議論を重ね, 化学工学会九州支部主催の学生賞審査会において優秀賞を受賞した博士課程の学生から選抜すると

2024 年度 化学工学会九州支部アニュアルレポート

いうこととなり、つまり非常に狭き門から選抜された 2 名が旅費支援対象者として、学生 IOC (International Organizing Committee)として参画した。世界で活躍できる学生の発掘及び対象者への育成支援ということを、支部として継続的に実施していくことが肝要である。

Schedule

Oct 13 (Sun)	Departure from Japan	
Oct 14 (Mon)	Arrival to Zagreb	Stay in Zagreb
Oct 15 (Tue)	Symposium Symposium Dinner	Stay in Zagreb
Oct 16 (Wed)	Lab tour and Factory tours	Stay in Zagreb
Oct 17 (Thu)	#Students-led incubation workshop -Outing to Plitvice Lakes National Park	Stay in Zagreb
Oct 18 (Fri)	Departure to Japan	

Symposium on 1st DAY (15th, Oct 2024)

Hybrid Style: Meeting room (capacity: 70~80) with zoom online

Program

CET		JST		
8:00	~ 8:30			Registration - Faculty Hall, University of Zagreb, Faculty of Chemical Engineering and Technology, Trg Marka Marulića 19, Zagreb, Croatia
8:30	~ 9:00	15:30	~ 16:00	Opening ceremony Prof. Ante Jukić, PhD, Dean of the Faculty (FCET, Croatia) Assoc. Prof. Anamarija Rogina, PhD (FCET, Croatia) Prof. Toshihisa Kajiwara, PhD (Vice-Chair of International Organizing Committee, Kyushu University, Japan)
9:00	~ 9:30	16:00	~ 16:30	Invited talk - Prof. Susumu Nii, PhD (Kagoshima University, Japan)
9:30	~ 10:00	16:30	~ 17:00	Invited talk - Prof. Zvezdana Findrik Blažević, PhD, Vice-Dean for Research and International Collaboration (FCET, Croatia)
10:00	~ 10:30			<i>Coffee break</i>
10:30	~ 11:00	17:30	~ 18:00	Invited talk Assoc. Prof. Yusuke Sakai, PhD (Kyushu University, Japan)
11:00	~ 11:30	18:00	~ 18:30	Invited talk - Prof. Gloria Gallego Ferrer, PhD (Universitat Politècnica de València, Spain)
11:30	~ 12:00	18:30	~ 19:00	Poster pitch presentation
12:00	~ 13:00			<i>Lunch - catering</i>
13:00	~ 14:00	20:00	~ 21:00	Poster session
14:00	~ 14:30	21:00	~ 21:30	Invited talk - Prof. Ivana Steinberg, PhD (FCET, Croatia)
14:30	~ 15:00	21:30	~ 22:00	Invited talk - Assoc. Prof. Yoshinori Kawabe, PhD (Kyushu University, Japan)
15:00	~ 15:30			<i>Coffee break</i>
15:30	~ 16:00	23:00	~ 23:30	Invited talk - Prof. Kazunori Koga, PhD (Kyushu University, Japan)
16:00	~ 16:30	23:30	~ 0:00	Invited talk - Assist. Prof. Gregor Primc, PhD (Jozef Stefan Institute, Slovenia)
16:30	~ 16:45	0:00	~ 0:15	Closing ceremony & photography
18:00	~ 20:00			Symposium dinner - Korak Winery, Plešivica 34, 10450, Jastrebarsko (bus leaves at 17:15 from Pierottijeva 6, 10000 Zagreb, Croatia)

令和 6 年度 Q・NET 企画

第 10 回 九州地区大学－高専若手研究者研究・教育セミナー実施報告書

日時 令和 6 年 12 月 7 日(土)、8 日(日)

会場 福岡市産学連携交流センター 会議室 (〒819-0388 福岡市西区九大新町 4-1)

ならびに 九州大学伊都キャンパス (〒819-0395 福岡市西区元岡 7 4 4)

主催 化学工学会九州支部若手エンジニア連絡会 (Q・NET)

参加者 18 名 (教員 6 名, 学生 12 名)

【内訳】

佐世保工業高等専門学校 2 名 (教員 1 名, 学生 1 名)

都城工業高等専門学校 5 名 (教員 1 名, 学生 4 名)

福岡大学 1 名 (教員 1 名)

九州大学 10 名 (教員 3 名, 学生 7 名)

実施報告

本セミナーは大学と高専の学生・大学院生や教員間の交流を目的としたものである。会の冒頭に参加者全員による自己紹介の時間を設け、参加者を知る機会とした。続いて参加学生による研究発表を行った。高専本科生・専攻科生、大学院修士・博士過程学生が各自 10～15 分程度の持ち時間で研究内容と研究室紹介を行った。各発表後には研究や研究室選択等に関する非常に活発な質疑が行われた。教員発表の部では、学科の紹介や化学工学会の活動紹介が行われた。発表の部終了後、参加学生が 3 つのグループ (各 4 名: 高専生 1-2 名、大学院生 2-3 名) に分かれ、約 30 分間、総合討論を行った。ここでは主に編入学・大学院入学およびその後の大学・大学院生活、進路についての高専生からの質問に大学院生が答えており、各グループで自由に交流・討論が行われた。教員間では、各大学、学科、高専の教育や研究に関する情報共有が行われた。福岡市産学連携交流センター内の神谷研究室の見学を行った後、場所を移動し交流会を行い、1 日目は閉式とした。

2 日目は今後の本セミナーの実施方法についての討議、教育・研究に関する情報共有を行うとともに、九州大学伊都キャンパス 後藤・神谷研究室の見学を行った。

本セミナーを通して、学生間では大学・高専の垣根を越えた交流が行え、研究室見学も含めて大学、大学院進学への関心を生む契機になったと思われる。教員間でも研究・教育活動の改善に向けた有意義な情報交換を行うことができた。

第 27 回 企業と大学・高専の人材育成懇談会 報告

日□時：□令和 7 年 1 月 24 日（金）□13 時 00 分（受付開始：12 時 30 分）

(1)・支部長挨拶（13：00～）

(2)・参加企業と大学・高専の相談会（13：05～18：25）

(3)・懇親会□（18：30～20：00）

会□場：懇談会；□リファレンス駅東ビル□3F□会議室 H-2

懇親会；□リファレンス駅東ビル□4F□会議室 Q

（福岡市博多区博多駅東 1 丁目 16-14）

参加者：42 名

[企業 18 社 29 名]□

(株)高田工業所・三井化学(株)・(株)半導体エネルギー研究所・ジェイカムアグリ(株)・(株)日立プラントサービス・日鉄ケミカル&マテリアル(株)・ニプロ(株)・リファインホールディングス(株)・JNC(株)・旭興産(株)グループ・三建設備工業(株)・東拓工業(株)・大日本印刷(株)・KJケミカルズ(株)・UBE(株)・月島環境エンジニアリング(株)・(株)ツムラ・大分瓦斯(株)□□（ローテーション順）

[高専 2 校 2 名・大学 8 校 11 名]

北九州工業高等専門学校・都城工業高等専門学校□

九州工業大学□北九州市立大学□福岡大学□佐賀大学□崇城大学□鹿児島大学□宮崎大学

九州大学□□（順不同）